

ローソンのIR活動

株式会社ローソン 経営戦略本部 IR・コーポレートガバナンス部長 伊 丹 英 人

当社は、IR活動を通じて、継続的に証券市場と対話を行うことでサプライズをなくし、当社のファンダメンタルズを反映した適切な株価や株主構成を達成するとともに、対話を通じて得られた気付きなどを社内で共有し、必要に応じて経営にも反映していくことを目指しています。そのためには、まず、当社の企業理念や中長期の経営ビジョンを理解していただくことが重要です。ローソンが社会と共生しつつ持続的に成長するために目指すべき経営の方向性を説明するとともに、ROE20%など中長期の目線やそこに至るロードマップを、投資家とのコミュニケーションを通じてお伝えしていくことを心掛けています。

機関投資家との対話は、社長やCFOなど経営陣の他、経営戦略本部に属するIR・コーポレートガバナンス部が対応しており、統合報告書制作や決算説明会運営なども含めたIR業務全般について、部長を含めた3名体制で効率的にカバーしています。社内情報については、経営戦略本部として入手するだけにとどまらず、四半期ごとに主要部署へのヒアリングを能動的に実施することにより、数値だけでは見えないビジネスの実態把握に努めています。また、IR活動の中でも、双方向の意見交換ができる面談を重視しており、年間500社を超える機関投資家からの取材依頼にほぼ全て対応しています（内半数は海外投資家）。更に、個人投資家や海外投資家向けの情報開示についても、統合報告書や決算補足資料をなるべく分かりやすく作成してIR専用サイトに掲載する他、英語

資料についてはネイティブにも読みやすいレベルを目指して質的改善に取り組んでいます。

こうしたIR担当部門による日常的なコミュニケーション以上に重要なのが経営トップによる投資家との積極的な対話です。当社では、第2四半期と第4四半期の決算発表後に機関投資家向け説明会を開催している他、投資家・アナリストと社長の直接対話の場となるスモールミーティングを年10回程度開催しています。更に、海外投資家とも、定期的に社長自らが海外に出向いて英語で直接対話しています。こうした機関投資家とのディスカッションを通じて、外部の客観的な視点からの気付きを得ることも多く、経営トップにとって有益なものとなっています。

当社では、社会の変化に柔軟に対応するため、固定的な中長期計画は作成していませんが、一方で、ROE20%という中長期での目線を掲げています。その実現に向けて、単なる事業規模の拡大ではなく、高い収益性や投資効率を達成するための、コアビジネスである国内コンビニエンスストアの事業戦略や、安定的な配当を支えるフリーキャッシュフローの考え方など、対話を通じて投資家に正しく理解してもらうことを心掛けています。

今後も、適時、公平、透明な情報開示をベースに、投資家との直接対話を通じた企業価値向上のための活動として、質の高いIRを目指していきたいと考えています。